まちの話題いろいろ

コロナ禍乗り越え、掴んだチャンス

栃木県で開催されるＪＦＡ第29回全日本Ｕ－15フットサル選手権大会に出場する伊藤真白選手が12月４日(月)に川地憲元町長を訪問しました。

伊藤選手は「新型コロナウイルス感染症の影響で今までこういった大会へ出場するチャンスに恵まれませんでした。今回、ようやく全国大会出場のチャンスを掴んだので、優勝を目指して臨みたいです」と話しました。

青いユニフォームに袖を通した紅一点

所属チームの監督や代表者から推薦を受けて中日ドラゴンズジュニアのメンバーとして選出され、ＮＰＢ12球団ジュニアトーナメントKONAMI CUP 2023に出場する片山さくら選手が、11月21日(火)に川地憲元町長へその報告をしました。

片山選手は「目標は優勝です。背番号やユニフォームをもらうことができ、とても嬉しいです。将来はプロ野球選手になりたいです」と話し、川地町長は「女性選手の選出は11年ぶりとのことですが、男性選手に負けないようプレーしてください」とエールを送りました。

手を取り合って暮らし豊かに

11月29日(水)に明治安田生命保険相互会社岐阜支社(岐阜市)より、地域住民の健康増進などの社会福祉事業推進を応援するために50万4000円を寄附していただきました。町と同社は令和３年６月に「健康増進に関する連携協定」と「高齢者等の見守り活動に関する協定」を締結し、地域住民の暮らしや健康を豊かにするために連携を図っています。

加藤健一支社長は「今後も町と手を取り合い、地域を盛り上げていくためにできることを考え、実施していきたいです」と話しました。

いただいた寄附は、社会福祉事業を推進するために有効に活用させていただきます。

楽しくプレーして掴んだ優勝

浅中総合公園(大垣市)で開催された第25回西濃地区老人クラブ軽スポーツ大会(種目：グラウンドゴルフ)で優勝した押越チームの小寺礼二郎選手、田中義一選手、伊藤哲男選手、細川茂利選手、水鳥雅代選手、伊藤はる子選手が11月29日(水)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。

選手たちは「楽しくプレーしています。なにかに継続して取り組むことで楽しみになるのだと思います。軽スポーツをはじめとして、楽しいと思える時間を作ることが大切だと思います」と歳を重ねても楽しく元気でいる秘訣を語りました。

今もなお愛される歌謡民謡

11月25日(土)に専念寺(高田)において山口俊郎先生顕彰会による祥月法要式が行われ、冥福を祈りました。山口俊郎先生は、おんな船頭唄(三橋美智也)や男のブルース(三船浩)など数多くのヒット曲を生み出すとともに、多くの民謡の編曲も手がけました。

顕彰会の安田澄雄会長は、先生の残した功績を振り返りながら偉大なる遺徳を偲びつつ、功績を紹介するとともに広く世に伝えていくことで、このまちから先生に続く音楽家が輩出されることを願いました。

国際交流協会創立25周年を祝って

11月26日(日)に町中央公民館 中ホールにて養老国際交流協会創立25周年記念フェスティバルが開催されました。友好都市であるバートゾーデン市の国際交流協会ＩＫＵＳから祝福メッセージも披露され、海外での体験談についての講演やピアニストによるジャズ演奏などが催されました。同協会の石井由美会長は「多くの人からご支援をいただき、創立25周年を迎えることができました。これからも喜びや感動を皆さまと共有しながら国際交流を推進していきたいと思います」とあいさつしました。